

「すべての女の子に教育を」



c UNICEF/UN/Eskinder Debebe/2003

ユニセフ出前講座はじめました

[6/26(土)コ-プ活動サポートセンター神戸北にて]



世界の子どもたちのことを学習、経口補水塩も試飲しました。

「自分のように豊かで文化的な生活をしている子は一握りなんだなあ」
(参加の中学生から)

これまでに訪問して開いた学習会

訪問日	訪問先	対象	人数
5月7日	神戸市立桜の宮中学校	1年生2クラス	76
5月9日	ガールスカウト第83団	小・中学生	21
5月18日	神大附属フレンドシップクラブ	保護者	25
6月12日	コープ虹っ子絵画教室	幼児～小学6年	約20
6月19日	淡河町青少年育成協議会	子ども～大人	20

支部ではボランティア募集中

ニュースを見ていただいて兵庫県支部の楽しい雰囲気を感じていただけたでしょうか。内容はイベントスタッフ、学習会講師、教材、カード販売、広報、事務局など。一人ひとりに合った方法が選べます。現在57名が登録。興味のある方ぜひお問い合わせください。

『ユニセフ・カードとギフト春・夏号2004』取扱中

毎月7日はカード・グッズの販売日です！ コープこうべ生活文化センター1階ロビー

あとがき

子どもこそ、未来そのもの！ “経済支援だけの国では所得伸びず、子どもの教育への援助が成功している国では伸びている”との白書は、自分に置き換えても納得させられる。未来を変えようと思う気持ちは子どもを思う時湧いてくる。自分たちの力で手に入れた学校生活が楽しいものだってことを、日本の子どもたちにも感じてほしいと願う。(K)

Wish Vol.9号(2004年夏)

ユニセフ兵庫ニュース

2004年(平成16年)7月発行(季刊)

発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部

〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター4F

TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

(平日の10時～16時)

案内図 JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分



ユニセフ兵庫支部
(コープこうべ生活文化センター内)

* ご協力ください *

ユニセフ募金

～ご家庭で学校で職場で～

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

郵便振替をお願いします

口座番号: 00190-5-31000

加入者名: (財)日本ユニセフ協会

通信欄に「K1 - 280 兵庫県支部」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも

1口 5,000円

学生会員...18歳以上の学生

1口 2,000円

団体会員...団体、法人、企業

1口 100,000円

申込み方法についてはお問い合わせください。

- 神戸まつりパレードに兵庫県支部が初参加(2.3)
- 学習会「子どもの権利条約」開催(4)
- 「トライ・やる」で神戸市立御影中学生がユニセフ体験(5)
- ユニセフ出前講座はじめました(6)



6月3日(木)、10日(木)に開催された学習会「子どもの権利条約」の様子
(左写真)講師の浜田進士さん (右写真)「トライ・やる」の山田花さん(写真中央)、東藤潤さんも参加

6月26日(土)神戸北地区でのユニセフ出前講座の様子

本紙は古紙100%の再生紙を使用しています。



大雨の中、神戸まつりパレードで 支援者、スタッフの皆さんと「しょー」行進



竹本会長と
ピエロ



ユニセフ号の
運転手さん



ボランティアスタッフ 杉山三千

初めての神戸まつりパレード参加。初めてのフロート作り。短期間でしたが素晴らしい経験でした。気軽に引き受けたフロートの絵の担当ですが、ユニセフを代表する作品だと思えば責任の大きさにため息が…。こうなったら家にこもって作業に打ち込もう！と決心しました。ところが「そりゃあ皆でワイワイ困りながらやらなくちゃ。一人で背負ったらダメよ」とのボランティア仲間の言葉に肩からスツと力が抜けました。

それからは、原画の拡大、アウトライン

ひき、色塗り、曲がったパネルの矯正、パネルを車に取り付ける作業、と続き、GWをはさんでボランティアと飛び入り参加の夫の力などが集結し、見事完成しました。パレード終了後の充実感は忘れられません。この年でこんなに熱くなれて幸せです。皆さん本当にありがとうございました。来年もよろしく！

ボランティアスタッフ 田中素子

雨がザーザー降る中、「緑と海そして愛」をテーマに神戸まつりは始まりました。日

本ユニセフ兵庫県支部は今回初参加、みんな緊張の中、パレードが開始しました。行進が始まる頃には、少し小雨になり笑顔が出て来ました。参加者約130名、いろんな仲間が集まってくれました。ユニセフロゴマーク入りのうちわを片手にフラッグ・ポスター・募金箱を持ち、音楽に合わせて行進が続きます。約1km、あっという間でした。

私はユニセフのボランティアをして約5カ月ですが、有意義な経験をしました。ユニセフの理解を得るためには効果があったと思います。来年もがんばります。

「楽しいお知らせがあります」

実行委員長 信貴やよい

3月末のある日、帰宅すると「楽しいお知らせがあります」と大書されたファックスが入っていました。

何かな？と思いながら取り出すと「神戸まつりに参加することが市から認められました」という事務局長の福井さんからのメッセージでした。他の文面は忘れましたが、とにかくその「お知らせ」が彼女のうれしさに満ちあふれているように思えました。一方、私はといえば、これから2カ月足らずの間になければならない沢山のことを考えて、思わず「わっ、どうしよう」と頭を抱えてしまいました。

じつは年初から、今年の神戸まつりに参加するということは聞いていましたが、あまり本気にはしていませんでした。考えてみてください。神戸まつりの情報もなく、テレビ中継をちょっと見たくらいの私たちに一体何ができるのでしょうか。頭に浮かぶのは超ド派手なサンパチ-ムのことばかり。

しかし、ことはもう動き出してしまいました。「やるしかない!!」主催者側からの注文にもあるように、できるだけ楽しいパレードにして、ユニセフをアピールすることを目標に計画を立て始めました。あれこれ大雑把に考えているラフプランの間は、とても楽しいものでした。が、いざその計画を具体的に詰めて、実現させていかなければならない段階に入ると、果たしてできるの

だろうか、という不安が頭をよぎり始めました。それを追い払ってくれたのが、折につけ福井さんから放たれる超楽観主義的「大丈夫デスッ!」の言葉でした。

そのとおり、組織に精通した福井さんの指導のもと、ボランティアの仲間から、各分野の専門家たちが現れ、彼ら、彼女らの奮闘によりパレードの形が出来上がりました。目玉の飾り車に関しては、コ-プこうべからトラックを運転手さんの協力付きで貸していただき、杉山さんご夫妻によるデザインと設置指導により、あのかわいいう「ユニセフ号」を走らせることができました。「ユニセフ号」完成には、準備段階から当日までコ-プ職員を含むたくさんのボランティアの皆さまに関わっていただきました。素敵なピエロの衣装7組は石本さんの作品です。そのピエロにコ-プ男女職員の方が扮装してくださいました。さらに当日大雨にもかかわらず、行進に参加くださった方が予想以上に多かったことには本当に感謝しました。今回は初めての経験のため、反省すべき点も多々ありますが、とりあえずは「やってよかった」と思いました。何より嬉しいことは、参加してくださった方の中から「いい経験をした、来年も参加したい」との声が聞けたことです。

ボ-イスカウト、ガ-ルスカウト、神大附属フレンドシップクラブの親子の皆さん、一般参加、コ-プこうべ、ユニセフ大阪支部、兵庫県支部の皆さま方、本当にありがとうございました。来年もまたやりましょう。



(左から)
下絵の色塗り作業
飾り付けの前日作業
当日の風船作業
当日の車の飾り付け作業

渋江典子さん（神戸大学附属住吉小学校 5年）

ユニセフのパレードにお母さんから聞いた時、あんまりうれしくありませんでした。でも、実際に行くと友達と会うと楽しくなって、パレードが始まるまでいろいろ話をしたり、パレードが始まったら、カメラ一つ一つに反応して3人でピースをしたり手をふったりして意外と楽しかったです。

手をふった時に、知らない人も手をふり返えてくれました。そんなことをしてくれるなんて思わなかったのでびっくりしました。ちょっとうれしかったです。

大雨の中ずぶぬれになりながらニコニコと手をふって歩くことができました。

私にとってユニセフは、難しいことをする少し暗いイメージでした。だけどみなさん明るい人達でした。歩いている時も声をかけてくれてうれしかったです。次は晴れた

時に参加したいと思いました。もっと楽しくて気持ち良かったと思いました。

コ-プ職員 籠谷妙子

神戸まつりには、サンパやパト、音楽隊にお祭り親善大使といった、美しいものがよく似合う。そして加えて、「ユニセフ」こそ、まつりのような華のある場所に参加することが大切で、神戸まつりにとっても意義がある存在と思いました。パレードの当日だけの参加でしたが、人の力の小ささ、大きさを知ることが出来ました。会場に来るまでは一人であっても、長い間かかって準備した手作りのパネルを車に取り付けたり、青と白の風船をふくらませ、車をユニセフカラーに飾り付けていく中で、徐々に笑顔がうまれ自然と一体になって、仲間になっていく思いがしました。パレードの集合場所には、ガ-ルスカウト、ボ-イスカウトの方たち、幼児とママの姿、

小学生・高校生の姿も見え、世代を超えた集まりに見えました。雨にぬれた街路を歩いていく中で、世界に目を向けた組織があることを、ユニセフ兵庫県支部があることを、市民に意識してほしいと思いました。また次の機会には、みんなもこのパレードに参加してほしい、普通の意識で、普通の服で、みんなが仲間なんだ、パレードに参加すれば、いつのまにか仲間になっていく、そんな思いがきつと、と確信できたパレード参加でした。



学習会「子どもの権利条約」開催

【6月3日(木)、10日(木)】コープこうべ生活文化センター-会議室

6月3日、10日 2回にわたり、子どもの権利ファシリテーターの浜田進士さんをお迎えし、子どもの権利条約(子どもにとって当たり前の事が出来るきまり)について学ばせて頂きました。両日ともワークショップを中心にユニセフビデオ、ゲームそして軽やかなジョークを交え楽しくお話してくださいました。さすがに元ユニセフ職員です。出席者の心を捕らえながら意見を出し、誰にでも分かる言葉



で進められました。一日目は条約が成立した背景と歴史、権利内容と構成を図解し、子どもにとっての基本的ニーズとは何か、をやさしく教えていただきました。

今回子どもの権利条約学習会に参加させていただいて、浜田先生より条約の歴史や内容、そしてユニセフの活動がどのように条約と繋がっているかを教えていただき、大変勉強になりました。生存・発達・保護・参加の権利はすべての子どもにとってあたり

事のように思えます。子どもが、子どもらしく、のびやかに生きていける事を願ってやみません。(平村謡生子)

人が人として生きるために、あたりまえに保護されるべきもの=権利がいかにまだないがしろにされているかを痛感しました。



「子どもが子どもらしく生きるということとはどういうことなのか」「権利に目覚めるってどういうことなのか」しらけている子どもたちに石を投げてみる必要はありそうです。(戸崎文子)

りまえの事でなくてはならないと思います。私達は世界中には、このあたりまえの権利が奪われている子どもが多くいる事を知らなければなりません。そして、子どもの権利条約を世界で実践しようとするのがユニセフの働きであることも多くの人々に知っていただきたいと思ひます。また日本においても保護者からの虐待を受ける子どもが増えている事、時には学校の先生などからプライバシーの侵害や名誉を傷つけられる様な事が身近で起こっていることなどを考えて

子どもは子どもとしてあるべきこと、やるべきこと、つまり義務のようなものを教えていくべきではないかという思いがあったからです。それが、浜田氏の『「権利」とはあたりまえのこと、正しいこと、わかちあえることが本来の意味



講師の浜田進士さん(子どもの権利ファシリテーター)

二日目はユニセフボランティアが総合的な学習の時間にどのような方法でアプローチすれば良いか。同じ世代の子ども達が世界ではどんな様子かを知るための基本手法を「トライ・やる」でユニセフ体験学習に来られた御影中学の山田さん、東藤さんも参加して学びました。

特に強調されたのが「子どもが参加する権利」「聞いてもらえる権利」があるよ！そして子どもの権利条約を実現しようとしているのがユニセフですと。

今回の学習会は先ずボランティアが熟知しておかなければいけない大切な学習であり、個々の持っている思いを合わせ心を込めて活動に役立てたいと思ひました。

である」との説明で、心にストンと納得できました。この時代に生きる子ども達と共に相方向から何が正しいか、何を分かち合えるかを考えていくことを私も勉強していこうと思ひました。(塚本恵美子)

私の眼が見る子どもの権利条約は、母親の視点から以外の何物でもなく、当の本人が何を望んでいるのかは、想像もしなかった。子育ての頃、子どもが泣くと、どうしたの？どうしたいの？と、よく聞いていたのに、すっかり忘れ、自分本位になっていることに、あらためて自戒の念をいただきました。

(木原礼子)



「生活創造センター-フェスティバルin神戸」に参加して



2004年5月22日(土)23日(日)、県立神戸生活創造センター3・4階を会場に、各種団体が日ごろの活動の成果を発表し、多くの来場者で賑わいました。

ユニセフ兵庫県支部では、活動を一人でも多くの方々に知っていただくためのポスター-展示、チラシや季刊誌『Wish』の配布、未開発地域の子も達が登校前に水汲みをするカメの重さ当てクイズをしました。来場者はカメの重さに驚いていました。カード・グッズ販売ではご協力いただきました。今後は啓蒙開発方法を工夫し、支部の活動を紹介していきたいと思ひます。(白土典子)

トライ・やるウィーク
神戸市立御影中学校から
東藤潤さん、山田花さん
【6月7日(月)~11日(金)】

オリエンテーション
ビデオ「ユニセフと地球のともだち」
ロビー-でのカード販売



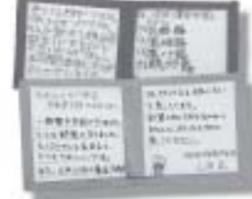
子どもの権利条約カード作成



子どもの権利条約学習会参加



4つの権利のパネル作成
感想カード



西脇でのユニセフ活動

西脇市アピカホールでの「ふれあいコンサート」でカード・グッズ販売【5月22日(土)】
西脇市西林寺都麻(ま)乃郷あじさい園でカード販売【6月20日(日)】



「ふれあいコンサート」会場で、西脇では初めてのカード・グッズ販売、『Wish』の配布などを実施しました。

募金贈呈

「ユニセフカップ2004芦屋国際ファンラン」での募金贈呈【4月11日(日)】
「いけばな小原流盛花まつり」での募金贈呈。並川明子副会長がいただきました【5月16日(日)】



「ユニセフカップ2004芦屋」会場では広報活動なども行いました。写真右は募金贈呈式での古河評議員。

神戸東ロータリークラブ

4月の例会でメンバーのみなさんから寄せられたユニセフ募金を、ロータリークラブの西原興一郎会長から林同春評議員がいただきました。



少林寺拳法東灘マック支部

6月13日(日)コープこうべの生活文化センターで行なわれた「少林寺拳法4支部合同演武会」でのユニセフ募金。みなさんの温かいお気持ちもいただきました。

お知らせ

西アフリカ シエラレオネ報告会「惨劇越えて」

- とき：8月25日(水)10:30~12:00
- ところ：県立神戸生活創造センター 6F 研修室(最寄駅/JR神戸駅)
- 内容：91年から内戦が続いたアフリカ・シエラレオネ。世界で最も子どもの死亡率が高い国。戦闘の傷跡、荒廃した街の様子など、復興への苦闘ぶりをスライドなどを使ってお知らせします。
- 講師：一色昭宏氏(毎日新聞・社会部記者)
- 参加費：無料 事前にお申し込みください 兵庫県支部 ☎078-435-1605



ユニセフ写真展「今、アフリカで起きていること」

- とき：8月12日(木)~8月30日(月)9:00~19:00
- ところ：コープこうべ生活文化センター1Fロビー(最寄駅/JR住吉駅)
- 内容：全世界の13%の人が暮らし、22%の面積をしめるアフリカ。本当に今、アフリカで何が起きているのか、アフリカの人々や子どもたちが立ち向かっている現在の困難とは……。より多くのみなさんといっしょに考えたいと思ひます。[41点を展示]

予告

10/2[Ⓟ]~3[Ⓟ] コープこうべ生活文化センター
「ユニセフ・ともじびチャリティバザー&オークション」
10/9[Ⓟ] 「1万人の健康フェスタ」
会場：都賀川公園及び灘区民ホール
内容：アグネス・チャン氏記念講演ほか
主催：ろっこう医療生活協同組合
ユニセフも
出展します